

移住者日記

✍ No.13

一般社団法人
おおくままちづくり公社

角田 涼太 様



移住する前は、新卒で都内のホテルに就職し、約 5 年間勤務しました。レストランのホールスタッフとして働いた後は管理部門も経験しましたが、仕事を続ける中で「地域づくりに関わる仕事がしたい」という思いが次第に強くなり、2023 年 6 月に埼玉県から移住しました。

地域づくりに関心を持ったきっかけは、鉄道で各地を巡る旅行でした。各地の風景や食だけでなく、地域の人との交流に魅力を感じるようになり、地方創生への関心を抱くようになりました。また、東日本大震災をきっかけに「東北に関わる仕事がしたい」、「復興に携わりたい」という思いも芽生えました。その中で出会ったのが、大熊町での復興支援員の仕事でした。最初は広く東北地方への移住を検討していましたが、特に浜通り地域は復興や地域づくりの動きが非常に活発であることに惹かれました。移住体験ツアーで南相馬市や浪江町にも訪れ、その中でも復興に向けたまちづくりに深く関わることができる大熊町に魅力を感じて移住を決めました。

現在は富岡町に住み、大熊町へ電車で通勤しています。移住を決めた際、家族に大熊町で働くことを話したところ、やはり福島第一原発事故のイメージが強かったため、驚かれましたが、「あなたの人生だから」と引き留められることはありませんでした。両親は田舎育ちで都会に出てきたため、息子が逆の道を行くのは意外だったようです。

移居前、放射線に対して大きな不安はありませんでした。移住体験ツアーなどで放射線に関する説明を受け、「現在は生活できる環境になっている」と理解していたためです。実際に暮らし始めると、駅などに設置されたモニタリングポストを日常的に目にするようになりました。最初は単位も分からなかったものの、毎日数値を見ているうちに、「これくらいの値なのだな」と自然に受け止められるようになりました。現在住んでいるアパートは海に近いので、日頃から放射線よりも津波への備えを意識し、津波マップを確認するなどして生活しています。

移住して約 3 年経ちますが、都会では経験できなかった「人とのつながり」が、今の暮らしの大きな魅力です。イベントや地域活動を通じて多くの人と知り合い、自分の考えや活動を人前で話す機会も増えました。中でも印象に残っているのは、私が移住体験ツアーで「先輩移住者」として話をしたことがきっかけで、富岡町で働き、大熊町への移住を決めた夫婦と出会えたことです。自分の話が誰かの背中を押すことにつながったことが本当に嬉しかったです。

現在は、おおくままちづくり公社で広報業務を担当し、Instagram やホームページ、メールマガジンなどを通じて町の情報を発信しています。「どんな情報に関心を持ってもらえるのか」を分析しながら、日々発信の仕方を工夫しています。

今後は、車を持たずに生活してきた経験を生かし、公共交通機関の情報を分かりやすくまとめたマップを作りたいと考えています。誰もが利用しやすい情報を届けることで、地域で暮らす人や町を訪れる人の役に立ちたいと考えています。「田舎だから何もない」ということはありません。都会にいた頃には耳にすることのなかったカエルの鳴き声が聞こえるような、豊かな自然に囲まれた穏やかな暮らしを楽しめます。また、週末になれば町内や近隣地域で様々なイベントやワークショップが開かれ、人々との心地良いつながりも感じられます。これからも地域との縁を大切にしながら、新しい視点でまちの魅力を発信し続けていきたいと思っています。